

続いて新日鐵釜石山神社です。新日鐵釜石山神社については御神輿を見たことはあっても意外とその社殿を見たことがない方が多いようです。実は取材で訪れるまで私もそうでした。



山神社について調べていくと新日鐵釜石の守護神社で、祀られているのは大山祇神（オホヤマツミノカミ）、木花咲耶姫（コノハナノサクヤヒメ）という山の神さまだという事が分かりました。そこで新日鐵釜石総務部の村田さんに詳しいお話を伺ってきました。山神社は安政四年に操業が開始された大橋高炉場にお祀りした山神社を始まりにしているそうです。（本来、山神社は釜山の守り神として祀られているのが一般的で山の神様をお祀りしている神社の総称であり、大橋には今も釜石釜山の山神社があり、毎年盛大に例大祭が行われています。）

繰り返された遷座

釜石製鉄所の山神社は現在、釜石市民体育館の前、弓道場付近にあります。元々は現在大渡町に鎮座する八幡神社をインクライン近くの八幡館からお遷した跡にお祀りしたのが始まりです。その後現在の場所に遷座するまでには、火災による消失や釜石線の開通など諸々の事情により、構内の平山大高炉沢を経て大正6年には鈴子公園へと移り、昭和38年に現在の場所へ遷座されました。お祀りしている神様については、前述の通りですが、同じ新日鐵でも各々の製鉄所で様々な神様をお祀りしているそうです。新日鐵釜石は以前、釜石釜山と一緒だったという事もあり、「山の神様を祭っているのしょう。」との事でした。

盛大な山神社例大祭

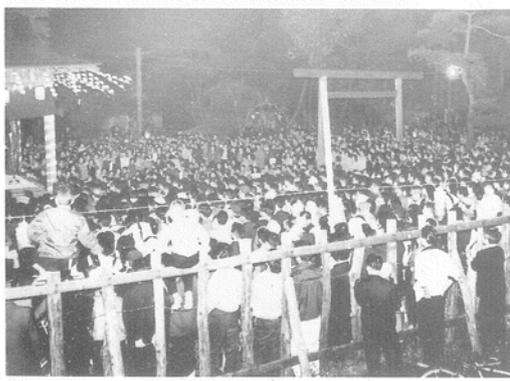
例大祭の始まりは起業記念日と一緒に10月16日に行われ、大正10年ごろには山神社祭が盛大に行な



われていたようです。例大祭の日程は一日宵宮、二日目大祭と現在と同じですが、いつごろからこのような形式で行なう



▲ 鈴子の山神社を出るお神輿 (昭和35年)



▲ 鈴子の境内で、催し物に鈴なりに人々 (昭和35年)

ようになったのかは定かではありません。しかし当時の写真をみるとかなり盛大な祭りだった事がわかりますね。村田さんお忙しいところありがとうございます。

神楽・虎舞、もう一方の主役。

神輿行列に随行する虎舞・太神楽には必ず大太鼓・小太鼓を載せるための屋台がつき、意匠はほぼ統一されている。立派な屋根を備えた屋台で、それぞれの団体ごとに際だつ個性を放つ。屋台と囃子が釜石まつりもう一方の主役たる所以。



台村虎舞



錦町虎舞



壽松院年行司支配太神楽



平田虎舞



只越町虎舞



東前太神楽